

【樹木の部屋】

フレンチラベンダー（シソ科ラヴァンドラ属 *Lavandula stoechas*）

和名：フレンチラベンダー **別名**：ストエカスラベンダー

英名：French Lavender、Italian Lavender、Spanish Lavender

シソ目 常緑低木 **原産地**：地中海沿岸

花言葉：私に答えて下さい、豊香

花の色：紫、白



← 写真-1 フレンチラベンダー

撮影日：2017年04月27日

撮影場所：S邸(大和郡山市)にて

撮影者：Mさん

ラベンダーは鮮やかな紫色と心地よい香りが魅力のハーブです。木本性ですが、草花として扱われることが多く、花壇の植え込みやコンテナ栽培などで楽しまれています。ちなみに、ラベンダー色（英語版）は薄紫色を意味します。

殺菌や良質な香り付けのために、古代ローマ時代に洗濯に用いられていたことからラテン語で「洗う」を意味する「*Lavandula*」がそのままラベンダーになったそうです。

高温多湿を嫌い、乾燥した気候で、日当たり、水はけの良い場所を好むラベンダーの中で、フレンチラベンダーは、暑さに強い方で、日本での栽培に比較的向いています。花穂の上に、

ウサギの耳のような花びらが二つ出ているのが特徴です。地中海沿岸が原産地なのにフレンチと付くのは、比較的温暖な場所に生えているからだそうです。

ラヴァンドラ属（ラベンダー属、*lavandula*）は春に紫や白、ピンク色の花を咲かせる様々な種がありますが、中でも紫色の花が最もポピュラーだそうです。

多くの種は、花、葉、茎は細かい毛で被われ、その間に精油を出す腺があります。揮発性の油を多く含むため、草食動物はほとんど食べないが、芳香で蜂などを引き寄せます。ユーカリと同じように夏の熱さなどで自然発火し、野火をよび、種子は野火の後に発芽する性質があるそうです。

多くの系統（品種群）がありますが、花の美しさと香りのよさでいえば、イングリッシュラベンダー（コモンラベンダー）が随一だそうです。

< ちょっと一言 >

ラベンダーの種類を幾つか・・・。

- ・イングリッシュラベンダー(コモンラベンダー)

Lavandula angustifolia

南フランス・プロバンス地方原産。高温多湿に弱く、寒さに強い。鮮やかな紫色の花と芳香が特徴。

- ・ラバンディン *Lavandula* × *intermedia*

原種のスパイクラベンダー (*L. latifolia*) とイングリッシュラベンダーの交配種

- ・フレンチラベンダー *Lavandula stoechas*

ウサギの耳のような苞のある花穂が可愛い。耐暑性に富み、夏越ししやすい。耐寒性はやや弱い、暖地でも枯死することは少なく、栽培しやすい。

- ・デントータラベンダー *Lavandula dentata*

スペインのバレアレス諸島、アフリカ北部原産。葉の縁に細かい切れ込みが入る。四季咲き性。香りはやや弱い。フリンジラベンダーとも・・・。

- ・ピナータラベンダー *Lavandula pinnata*

カナリア諸島、マデイラ諸島原産。耐暑性に富むが、耐寒性は弱い。花穂は3つに枝分かかれし、秋から初夏まで開花する。レースラベンダーとも・・・。